

9 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりの推進

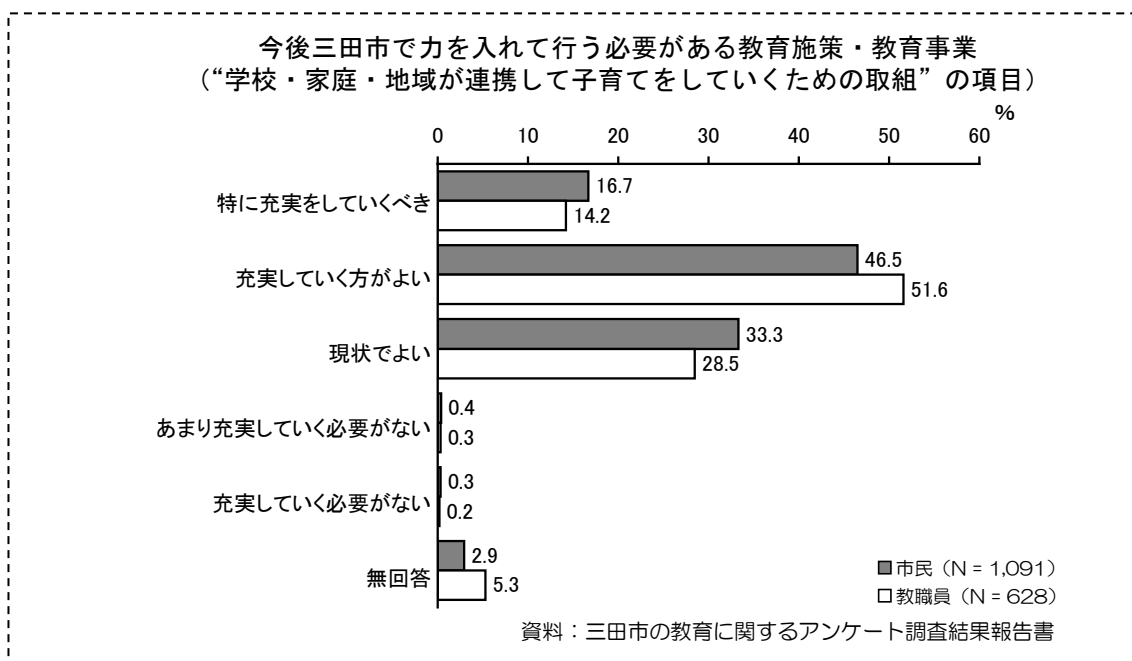
子どもの成長をまち全体で支えていくため、学校・家庭・地域がそれぞれの責任と役割のもとに、相互に連携・協働し、子どもの教育に取り組むことが重要です。

そのため、連携・協働の具体的な仕組みを構築し、家庭・地域の人々が主体的に教育活動に参画し、地域ぐるみで子どもを育成していく体制づくりが必要です。

(1) 学校・家庭・地域の連携と協働による育成活動の推進

現状と課題

- アンケート調査では、今後三田市で力を入れて行う必要がある教育施策・教育事業として、「学校・家庭・地域が連携して子育てをしていくための取組」について「特に充実をしていくべき」「充実していく方がよい」を合わせた割合が6割以上となっています。



- 年間の学校支援ボランティアの参加者数は延べ4,800人を超え、学校支援地域本部事業※が各校に周知され、活用が進んでいます。
- 市内のコミュニティ・スクール※においては学校・家庭・地域の連携のもと、地域住民が学校運営に参画することにより、地域とともにある学校づくりが進んでいます。今後はコミュニティ・スクール※実施校をさらに拡充し、地域住民が学校を支える仕組みづくりを進めることが重要です。
- 地域の大人が子どもに関心を持ち、主体的に学習支援やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を実施することにより、子どもが地域社会の中で見守られ、心豊かで健やかに育つ環境づくりを推進していく必要があります。

施策の方向

地域ぐるみで子どもの育ちを支えるため、保護者や地域の人々が学校運営に参画・支援する仕組みづくりを推進します。

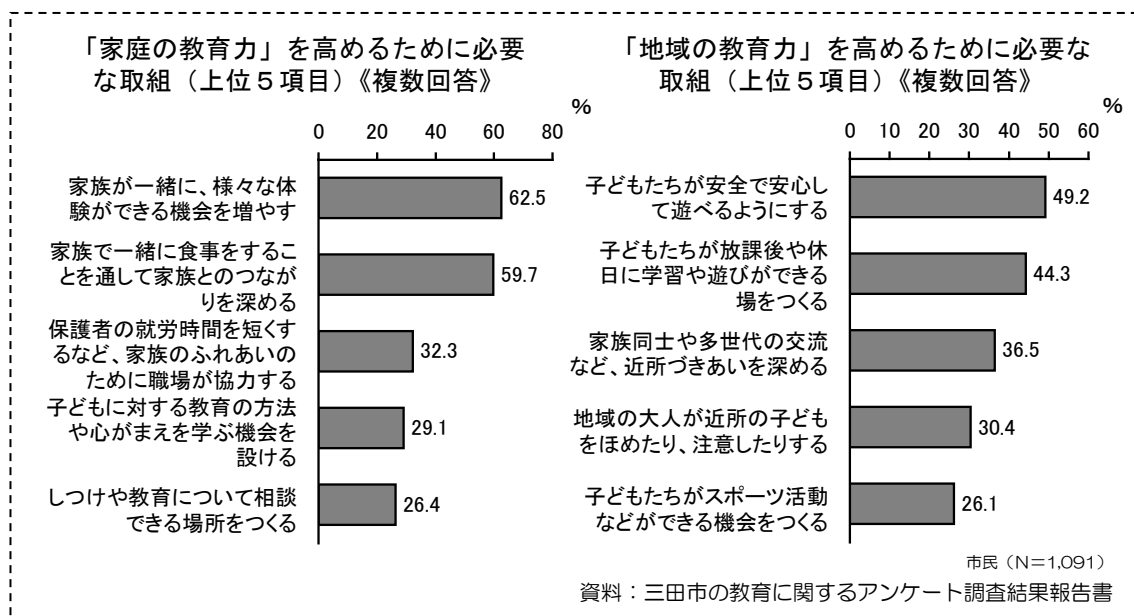
また、青少年の健全育成や世代間交流、体験活動等、学校・家庭・地域・関係機関との連携により、子どもの育成活動を推進します。

主な取組	取組内容	担当課
学校・家庭・地域の連携による事業の推進	学校支援ボランティアの活動や放課後子ども教室*の活動を地域や学校に周知し、未来を担う子どもの成長を地域と学校が連携・協働して、地域全体で支えていく活動を推進する。	多世代活躍支援課
コミュニティ・スクール*の推進	地域ぐるみで子どもの育ちを支えるため、保護者や地域の人々が、主体的に学校運営への参画と効果的な支援を行うための仕組みとして、コミュニティ・スクール*の取組を推進する。	学校教育課
P T A活動の充実	三田市内の各P T Aが一層充実した活動を展開できるよう、継続的な研修の実施を支援するとともに、スマートフォン等に関する使用マナーの徹底等について、定期的な情報提供や意見交換を行う等、P T Aが実施する活動との連携を図る。	学校教育課
地域に学ぶトライやる・ウィーク*の推進	トライやる・ウィーク*の趣旨や育てたい力等の共通理解を図り、学校・家庭・地域が連携することにより、豊かな感性や創造性、自ら考え主体的に行動し問題を解決する力を育むトライやる・ウィーク*を推進する。	学校教育課
地域での青少年健全育成の推進	青少年補導員による街頭補導活動や「白ポスト*」による有害図書類の回収等、学校・家庭・地域・警察・補導員が連携し、青少年の健全育成を推進する。また、青少年健全育成大会*等を通じて、地域における理解を深める。	健やか育成課
余裕教室*の活用	学校の余裕教室*を活用し、地域の大人が子どもに関心を持ち、世代間の交流を深め、学校と地域の連携を図るとともに、良好な地域コミュニティづくりに向けた取組を推進する。	教育総務課
放課後子ども総合プランの推進	子どもが放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験活動等を行うことができるよう、放課後児童クラブ*と放課後子ども教室*の連携を推進する。	こども政策課 多世代活躍支援課
「こうみん未来塾*」の推進	科学技術への関心やチャレンジ精神、グローバルな活躍への気概を持つ子どもの成長を地域全体で支える取組として「こうみん未来塾*」を推進する。	多世代活躍支援課

(2) 家庭・地域の教育支援

現状と課題

- 市民ボランティアや市民団体等と連携し、子育てフォーラム*を開催することにより、家庭・地域・関係機関が一体となって、子どもを育ていく啓発の機会としており、今後も、子育てをしている保護者が親として成長するための学びの機会の提供、関係機関の連携による地域が家庭を支える体制づくり等、家庭教育への支援の取組を充実していくことが必要です。
- アンケート調査では、「家庭の教育力」を高めるために必要な取組については、「家族と一緒に、様々な体験ができる機会を増やす」の割合が、「地域の教育力」を高めるために必要な取組については、「子どもたちが安全で安心して遊べるようにする」の割合が高くなっています。



- 家庭で子育てをする上で様々な悩みや心配事等に応じるため家庭児童相談の充実を図るとともに、地域での児童虐待対応を含む子育て支援を行えるよう、より一層地域への啓発を進めていくことも重要です。
- 少子高齢化や核家族化の進行等により、子育てに不安や負担を感じている保護者が増加しており、孤立化や子育て経験が世代間でうまく継承されていないことが懸念されています。また、子どもにおいても家族内や友人関係、学校生活などにおいて不安や悩みを抱えており適切な指導・助言が求められています。
- 子どもの人権やいのちの大切さの啓発については、人権啓発ポスターや人権標語を児童・生徒・保護者・地域住民に広く呼びかけ、「人権を考える市民のつどい*」を通じて、人権感覚の世代間共有を深めており、今後も各世代に切れ目なく啓発していく必要があります。

施策の方向

子育てを通じて、保護者自身が子育てやしつけについて学び、考える機会や様々な悩みや心配事への相談体制を充実し、多世代の交流や家庭教育を支援します。

また、家庭や地域で子どもの権利を守るため、子どもの人権やいのちの大切さについて大人が正しく学び、理解を深められるよう情報提供や啓発を推進し、地域での人権に関する研修や学習機会を充実します。

主な取組	取組内容	担当課
子育てフォーラム [*] の開催	市民ボランティアや子育てグループ等と協働で、子育てフォーラム [*] を開催し、家庭・地域・関係機関が一体となり、子どもを育む啓発の機会とする。家族で参加し、子育てを学ぶ機会となるよう企画を行う。	健やか育成課
家庭教育学級 [*] の充実	学級の自主性、主体性を尊重しつつ、保護者同士が交流を深め、子育てを通じて、学びの機会となるよう支援する。また、父親の参加や地域との連携を促進する取組を充実させる。	健やか育成課
家庭児童相談の充実	家庭で子育てする上での様々な悩みや心配事等に応じるとともに、要保護児童等対策地域協議会 [*] において児童虐待対策を講じ、関係機関や地域が連携し、早期発見・早期支援体制を充実させる。	こども支援課
青少年相談の充実	青少年期における友人関係や学校生活、進路、親子関係等の悩みについて、その解決に向けての相談業務を行う。学校や関係機関との連携を強化して、より適切な対応や健全な心の成長に関する支援の充実を図る。	健やか育成課
世代間交流活動の支援	若い世代やシニア世代等が集う「多世代交流館シニア・ユースひろば [*] 」で、中高生が乳幼児とその保護者との交流を通じ、家庭や子育ての大切さを学ぶ機会を提供する。また、小中高生が同世代、異世代間で交流することに加え、地域ボランティアとの交流も活発に行えるよう、事業の企画運営を行う。	健やか育成課
子どもの人権やいのちの大切さの啓発	「三田幸せプロジェクト [*] 」において、「子どもの人権について考える」分科会を設け、子どもを取り巻く課題を「大人の課題」と捉え、子どもの権利や生命の大切さについて啓発していく。	人権推進課
人権に関する研修や学習機会の充実	部落差別をはじめ、あらゆる差別を解消し、誰もが幸せを感じる人権尊重のまちを実現するため、「人権を考える市民のつどい [*] 」や市民参画の「人権を学ぶ啓発講座」等の充実を図るとともに、性的マイノリティ [*] 等の新たな課題について取り組んでいく。	人権推進課

5年間の目標

基本施策9 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりの推進			
項目	現状	目標 (平成33年度)	目標値の説明
コミュニティ・スクール* 実施校	7校 (平成28年度)	全29校	学校・家庭・地域が一体となって、子どもを育てる仕組みづくりを推進するため、全校で実施することを目標として設定
「トライやる・ウィーク* は地域にとっても有益な 活動である」と答える事業 所の割合	74.5% (平成28年度)	80.0%	トライやる・ウィーク*の実施は、子どもが地元への愛着や誇りを持つこと、地域が一体となって子どもを育てていこうとする気運の向上等も期待できる。本事業に対する地域の有益感を表す指標として過去5年間の最大値を目標として設定
放課後子ども教室*実施学 校数	14小学校 (平成27年度)	17小学校	子どもの遊びや学び、様々な体験等を地域全体で見守り育成する取組を推進するため、実施小学校数の増加を目標として設定
「こども未来塾*」の年 間参加者数	—	5,000人	科学技術への関心やチャレンジ精神、グローバルな活躍への気概を持つ子どもの成長を地域全体で支える取組を推進するため、「こども未来塾*」の年間参加者数を目標として設定
「人権を考える市民のつ どい*」講演の満足度の割 合	92.6% (平成27年度)	95%以上	部落差別をはじめ、あらゆる差別を解消し、誰もが幸せを感じる人権尊重のまちを実現する取組を推進するため、「人権を考える市民のつどい*」講演の満足度の割合を目標として設定



10 「学び」が活かせる環境づくりの推進

生涯学習*の振興においては、学習機会の充実に加え、学習の成果を適切に活かすことができる社会の実現が求められています。市民の様々な生涯学習*活動の成果を学校や地域に還元するとともに、学んだことを子どもの教育に活かしていくことが重要です。

また、多くの豊かな自然環境や歴史的・文化的・芸術的な地域遺産をはじめ、豊富な学習資源を活用した学習活動を活発に行っていくことが重要です。

(1) 学習成果を活かす仕組みづくりの推進

現状と課題

- 社会教育施設の運営に積極的に市民や事業者の活力を導入し、民間のノウハウやネットワークを活かしながら、学びの充実化を進めています。
- 「さんだ生涯学習カレッジ*」においては、在学生にボランティア参加を呼びかけたり、修了生への情報提供を行ったりしています。今後は、「さんだ生涯学習カレッジ*」が担うべき役割として、市民力の育成や組織化をさらに重視し、学習と交流の成果を地域や家庭で活用するよう、促していく必要があります。
- 生涯を通じた市民の自主的な学びの成果を社会教育施設等において活用し、他の市民に還元していくことができるよう、仕組みや機会づくりをさらに進めていく必要があります。

施策の方向

市民の自主的な「学び」を支援するとともに、子どもの教育に活かすため、市民一人一人が培ってきた学習成果を学校や地域に還元していきます。

主な取組	取組内容	担当課
子どもの育ちを支える社会教育施設等の活用	既存の社会教育施設等を、地域の社会教育・生涯学習*の拠点として積極的に活用して市民の自主的な学びを支援しながら、地域の人材育成を推進するとともに、学びの成果が次世代に還元されるよう、仕組みづくりを進める。	文化スポーツ課
「さんだ生涯学習カレッジ*」を通じた人材の育成	地域社会に資する人材の育成を重点目標とした学びの機会の創出を進める。	文化スポーツ課
子どもの読書や調べ学習を支援できる人材育成の推進	図書館を拠点に、ボランティア希望者、保護者、学校関係者等を対象として、絵本の読み聞かせやストーリーテリング*、調べ学習のスキルの育成等に取り組む。	文化スポーツ課

(2) 多様な学習資源の活用

現状と課題

- 市が所蔵する歴史資料や民具等を活用し、実物資料にふれることができる様々な学習機会を提案してきました。今後とも、貴重な文化遺産を活用した様々なプログラムに取り組み、子どものふるさと観を醸成するとともに、三田の歴史と文化を次世代に継承する必要があります。
- 有馬富士自然学習センターを拠点にした子ども向け体験学習や地域への出前教室等を進めてきました。今後とも、子どもの教育のために、本市の豊かな自然環境を活用し、地域性を踏まえた専門性の高い学習プログラムを開発し、実施していくことが必要です。
- 市立図書館において、資料や施設等、資源の有効活用に努めてきました。今後は平成28年度に更新した移動図書館*の機動性を活用し、館外での活動を一層充実させるとともに、学校や学校司書*等との連携を図りながら、子どもの読書や調べ学習の活動を推進していくことが必要です。
- 子どもの成長のためには、豊富な学習資源や優秀な地域人材を活用し、文化的・芸術的な情操を育むことが必要です。

施策の方向

“ひと・まち・自然が輝く三田”を誇りに思う心、愛する心を持つ子どもを育ていくため、地域の豊富な学習資源を活用して、多様な学び場を充実させ、幅広く地域の自然、歴史・文化や芸術活動に親しみ、理解を深める学習機会の創出を進めます。

主な取組	取組内容	担当課
歴史資料を活用した体験学習の推進	市の所蔵する数多くの歴史資料を整理活用し、文化財施設や学校への出前講座・展示、体験学習を行い、ふるさと意識や郷土への愛着心を育む機会を積極的に提供する。	文化スポーツ課
有馬富士自然学習センタースクールサポート事業の推進	校庭や学校周辺の公園や里山等の自然環境を学習資源として、体験学習に活用するとともに、自然環境の豊かな「有馬富士公園生態園（林の生態園・草地の生態園・水辺の生態園）」を学習の場とするスクールサポート事業を推進する。	文化スポーツ課

主な取組	取組内容	担当課
図書館を通じた「学び」の支援の推進	学校や学校司書*との連携を深めながら、子どもの読書活動や調べ学習を人的・資料的に支援するとともに、「読み聞かせ」や「調べもの」等の指導者の育成にも取り組む。	文化スポーツ課
移動図書館*を活用した館外支援活動の推進	定期巡回に加えて、積極的に移動図書館*車を地域・学校等に出張させ、多世代にわたる地域住民のニーズを踏まえながら、館外においても多様な学びや読書への支援活動を展開する。	文化スポーツ課
総合文化センターの芸術文化普及・育成事業の推進	総合文化センターの事業において、学校等へ出向くなどの館外事業を拡大し、子どもが多彩な芸術文化を鑑賞できる機会を増やす。	文化スポーツ課

5年間の目標

基本施策 10 「学び」が活かせる環境づくりの推進			
項目	現状	目標 (平成33年度)	目標値の説明
有馬富士自然学習センター学習プログラムの参加者数	3,042人 (平成27年度)	3,300人	自然環境を学習資源とした体験学習や「有馬富士公園生態園」を学習の場とするスクールサポート事業を推進するため、学習プログラム参加者数を目標として設定
「図書館を使った調べる学習コンクール*」に参加した市立小中学校の数	6小学校 8中学校 (平成27年度)	全28校	学校との連携による学習支援活動を推進するため、コンクールに参加した児童生徒が所属する市立小中学校の数を目標として設定

